

平成 21 年度 肉用牛の入門講座の概要



平成 22 年 3 月

(社) 山口県畜産振興協会

山口県畜産振興課

目 次

1	平成 21 年度肉用牛の入門講座募集要項	P1
2	平成 21 年度肉用牛の入門講座の実施状況	
(1)	肉用牛の基礎講座	P 3
(2)	現地研修	
ア	周南市 A 牧場	P 4
イ	阿東町 B 牧場	P 5
ウ	長門市 C 牧場	P 6
エ	下関市 D 法人	P 7
(3)	子牛市場視察・意見交換会	P 8 ~ 9

< 肉用牛の入門講座について >

この講座は、(社) 山口県畜産振興協会が山口県から委託を受けている「畜産の担い手確保対策推進事業」の一環として、県関係機関との連携により開催している。

今年度も 13 名の参加申し込みがあり、肉用牛基礎講座、4 ヶ所での牧場実習、子牛市場研修を行った。参加者の中には、講座終了後に牛を導入し、牛を飼い始めた方もあり関係機関の担当者も嬉しい悲鳴を上げている。

中山間地の過疎化が進む中、この入門講座が和牛放牧をベースとした農林業を開始するきっかけとなり関係者や受入農家が連携して継続的に支援していくことが重要と考えています。

平成 2 2 年 3 月

社団法人 山口県畜産振興協会

**平成21年度
肉用牛の入門講座受講者募集要項**

1 趣 旨

山口県で就農を希望される定年予定者や他産業従事者等を対象に、肉用牛飼養を始めるきっかけを作るため、肉用牛飼養の基礎講座と牧場体験実習・視察を行う「肉用牛の入門講座」の参加者を募集します。

2 募集対象者

将来、定年や転職を機に山口県内に就農を希望され、肉用牛飼養に興味を持たれている方。

3 募集定員

20名

4 研修内容

(1) 肉用牛飼養の基礎講座(1日)

〔肉用牛経営の内容や飼養管理方法等の知識習得〕

講 義 牛に関する基礎知識、肉用牛の基本的な飼養管理など

研 修 肉用牛の飼養現場視察

牧場選定 牧場体験の受入れ農家紹介

(2) 牧場体験・視察(土、日、祝祭日に行います)

<牧場体験> 2日(2ヶ所)

県内の肉用牛農家での牧場実習

飼養管理体験、受入れ農家との意見交換など

(3) 市場視察及び意見交換会(1日)

山口県中央家畜市場視察

子牛の流通現場の視察

受講者と受入れ農家などによる意見交換

5 開催日時・場所

(1) 基礎講座

日時：平成21年7月4日(土) 10時から15時まで

場所：山口県防府市牟礼318

山口県農林総合技術センター農業研修部(農業大学校)

(2) 牧場体験・視察

牧場体験

日時：平成21年7月～11月の間の土、日、祝祭日 10時から15時まで

開催場所：受入れ農家の中から2か所を選択

牧場視察

日時：受講者の希望を聞いて1日実施 10時から15時まで

場所：受講者の希望を聞いて視察先を選定

(3) 市場視察及び意見交換会

日時：平成21年12月10日(木) 10時から15時

場所：山口市嘉川 山口県中央家畜市場(子牛市場視察)

山口農林事務所畜産部（意見交換会）

6 経費

- (1) 参加費 無料
- (2) 昼食 牧場体験・視察については、各自持参となります。

7 申込み手続き

(1) 申込書請求先

社団法人 山口県畜産振興協会 (<http://yamaguchi.lin.gr.jp/>)
〒754-0002 山口県山口市小郡下郷 2139 番地 (県JAビル内)
(083) 973-2725 FAX (083) 974-1030

山口県農林水産部畜産振興課畜産経営班
〒753-8501 山口県山口市滝町 1 番 1 号
(083) 933-3430 FAX (083) 933-3449

山口県内各農林事務所畜産部（下表参照）

(2) 申込み先

別添「受講申込書」を、山口県畜産振興協会宛に送付（郵送、FAX）または、山口県農林水産部畜産振興課、あるいは山口県内のお近くの農林事務所畜産部へ持参してください（なお、FAXの場合は送信後に電話で着信を確認して下さい）。

(3) 申込み期限

平成21年7月1日(水)必着

山口県内農林事務所畜産部の所在地と連絡先

岩国農林事務所 畜産部	〒740-0016 岩国市三笠町1丁目1-1 (岩国総合庁舎4階) TEL 0827-29-1564 FAX 0827-29-1595
田布施農林事務所 畜産部	〒742-0031 柳井市南町1丁目-10-3 (分庁舎) TEL 0820-22-2416 FAX 0820-22-2453
周南農林事務所 畜産部	〒745-0004 周南市毛利町2丁目-38 (周南総合庁舎5階) TEL 0834-33-6460 FAX 0834-33-6513
山口農林事務所 畜産部	〒754-0897 山口市嘉川671-5 (分庁舎) TEL 083-989-2517 FAX 083-989-2518
美祢農林事務所 畜産部	〒759-2212 美祢市大嶺町東分3449-5(美祢合同庁舎2階) TEL 0837-52-1070 FAX 0837-52-1689
下関農林事務所 畜産部	〒750-0421 下関市豊田町殿敷1892 TEL 083-766-1018 FAX 083-766-0239
長門農林事務所 畜産部	〒759-4401 長門市日置上 1251-6 TEL 0837-37-5606 FAX 0837-37-5612
萩農林事務所 畜産部	〒758-0061 萩市椿3621-1 (分庁舎) TEL 0838-22-5677 FAX 0838-22-2285

平成 21 年度肉用牛の入門講座の実施状況

(1) 肉用牛の基礎講座

- 場所：山口県農林総合技術センター農業研修部（農業大学校）
- 日時：平成 21 年 7 月 4 日（土）
- 参加者：10 名。関係者 18 名。
- 内容：

1. 基礎講座

「肉用牛経営について」畜産振興協会事業指導部 清水 誠 次長

「肉用牛の基本的な飼養管理について」農業大学校 大元義彦 主任

2. 繁殖牛、子牛、肥育牛の飼養管理実習

3. 牧場実習受入農家紹介

4. 意見交換



基礎講座の様子



肉用牛飼養管理の説明



機械の説明



ブラッシング体験の様子

(2) 現地牧場実習

<周南市 A 牧場> 入門講座卒業生の取組みを学ぶ

- 日時：平成21年8月29日(土)
- 参加者：8名。関係者3名。A牧場1名。
- 内容：

1. 手づくり牛舎、作業手順説明
2. 耕作放棄地での放牧実践内容紹介(手作りの水飲み場、放牧地拡大の手順、放牧牛の馴致等)。モア作業実習。
3. 意見交換



手づくり牛舎説明



放牧牛用水飲み場



モアによる刈り取り



放牧牛の管理

4. 参加者の感想

- 省力化と経費節減を学ぶ。牛を愛し農地を守る地域の担い手であることを理解。
- 廃棄物利用・工夫に感心。
- 上手な廃材利用に感心。各種補助があることを理解。もっと勉強したい。
- 育成牧場の上手な活用を学んだ。

<阿東町 B 牧場> 高い生産技術・母牛育成技術

- 日時：平成21年9月12日(土)
- 参加者：3名。関係者4名。B牧場3名。
- 内容：
 1. 公共事業による牛舎(バーンクリーナ設置) 堆肥舎施設確認。
 2. 牛群整備について(高得点、良好な受胎率維持)
 3. 補助事業活用で機械装備



情報交換



堆肥処理説明



牛づくりの成果



機械の説明

4. 参加者の感想

- バーンクリーナーによる作業の効率化など参考になった。動態表で牛の飼養頭数が年々増頭しているにも係らず、子牛出荷率が向上し、分娩間隔が短縮しているなど日々の努力の賜物であると感じた。
- 工夫された牛舎に感心。牛の体がきれい。
- 良い牛の見方を学び参考になった。ブラッシングをしないのに牛がきれいであることに感心。

<長門市 C 牧場> 工夫された牛舎、子牛育成技術

- 日時：平成21年10月24日(土)
- 参加者：6名。関係者2名。C牧場1名。
- 内容：
 1. 稲ワラロール収集作業実習
 2. 低コスト牛舎、飼養管理の工夫確認
 3. 意見交換



飼養管理の工夫



ロールベラー収穫



情報の管理



意見交換

4. 参加者の感想

- 牛に愛情を込めて育てていることを理解。血統に精通し工夫された飼養管理が子牛市場で高評価を得ていると感じた。

< 下関市 D 法人 > 法人経営管理

- 日時：平成 21 年 11 月 21 日（土）
- 参加者：2 名。関係者 3 名。牧場 2 名。
- 内容：
 - 1 . 「みのりの丘」を管理運営する第 3 セクター方式の取組み概要説明。
 - 2 . ロールベール作業実習
 - 3 . 繁殖舎、育成舎、分娩舎説明。意見交換



ロールベール実習



分娩房の保温



配合飼料の説明



飼養管理作業内容説明

4 . 参加者の感想

- ロールベール作業は参考。牛舎で飼料や作業内容について丁寧に説明を頂き感謝。

(3) 子牛市場視察・意見交換会

- 日時：平成21年12月10日(水)
- 参加者：今年度受講者3名。過去受講者5名。関係者15名。
- 内容：
 1. 山口中央家畜市場 子牛市場での流通視察
 2. 肉用牛飼養に係る支援制度説明(県畜産振興課 三宅主査)
新規就農の概要と流れ、資金活用方法、法人支援、各種補助事業、価格保証制度、家畜共済制度、法律、関係機関等を説明。
 3. 牧場実習の概要報告(畜産振興協会 清水) 農業総合技術センター畜産技術部からの情報提供。
 4. 意見交換

<主な意見>

牧場実習について

- ・ A牧場では、合理的な牛の飼い方(育成牧場の活用)、リサイクル活用(廃材の活用等)を学んだ。牛への愛情に感心。
- ・ B牧場では、高齢でも短時間でできる作業体系に感心。繁殖成績が良好であることに感心。
- ・ C牧場では、細かい作業を徹底して実践していることに感心。牛床のゴムマットに感心。集草作業は参考になった。女性のこまやかな管理に感心。
- ・ D法人では、ロールペーラー体験ができ、牧場担当の若手職員から作業手順や飼料の種類などを丁寧に教えていただき感謝。

その他

- ・ 島での放牧を模索。水が確保できればどこでも可能。
- ・ 牛を初めて7頭に増えた。放牧地も2.5haへ拡大。耕作放棄地がきれいになるとそれを見た近所の方から依頼が来る。昔牛を飼っていた方は放牧牛を任せられるし、逆に教えてもらえる。市内の肉用牛農家と連携して放牧を拡大。
- ・ 入門講座終了後子牛2頭購入。牛舎は5頭用100㎡を建築。シヨベルも購入。さらに2頭導入。来年早々に初めて分娩を迎え、不安。畜産試験場での研修は可能。何かあったら共済獣医へ連絡。
- ・ 7頭飼養中。放牧を開始。放牧は牛がよくなる。1頭流産があった。現在、地域で集落営農法人の構成員として放牧を実践中。
- ・ 経産牛導入を繰り返したが流産や死産が連続。今回分娩する子牛に期待。
- ・ きれいな牛舎が基本。妊娠鑑定とは、その時に子牛がいたということ。和牛は本来自然に分娩が可能。
- ・ 放牧実践者が増えているが、自らの技術向上と経験が必要。特に退牧時期の見極めは慎重に。
- ・ NPO法人が牛の活用を知るために参加。今後、若い構成員も参加させたい。
- ・ 牛の飼養は観察が基本。牛の飼養管理方法や飼料マニュアルは様々な情報があるが、まず基本を実践すること。

- ・ 農業大学では年齢制限なく 1 年かけての実習も可能。
- ・ すでに新規就農希望している受講生がいる。牛 4 頭を導入し経営を開始したが、牛舎周辺の住民理解が必要であることを痛感。
- ・ いろいろな機会に牧場へいってみることが必要。牧場の方を多く知り、関係機関の職員を知り、牛を飼い始める仲間を作ることが重要。県・農林事務所畜産部も十分対応してくれることを期待。

< 修了証授与 >

基礎講座、牧場実習、子牛市場研修受講を終了した者に修了証授与。



子牛市場のセリ見学



今年の受講生



支援する関係機関の職員



修了証の交付